

博物館だより

No.32

平成20年12月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
 福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
 TEL 0930-33-4666
 FAX 0930-33-4667

歴史たんけん 作文コンクール 入賞者決定!

博物館友の会とみやこ町教育委員会が共催で実施した「夏休み小学生歴史たんけん作文コンクール」の入賞者が決定しました。今回で13回目となるこの作文コンクールには90点の作品が寄せられました。どの作文もよく書けていましたが、その中でも特に優れた6点が今回の入賞作として選ばれました。各賞の受賞者は次のとおりです。

◎最優秀賞(1名)

三毛門小学校5年 久恒 歩

「山伏になろう」

◎優秀賞(5名)

★与原小学校5年 大松 和暉

「鶴市かさぼ(祭り)」

★行橋南小学校6年 榊 華菜子

「日本のすばらしい人達」

★行橋南小学校6年 高山 健登

「行橋市周辺で」

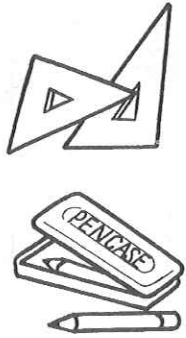
ほくが見つけた不思議な物」

★苅田小学校6年 辻 優花

「證誠寺の狸囃子について」

★延永小学校6年 吉岡 恵理

「Dinosaurius」



博物館の活動日記から

11月19日(水)町内小学校へ出前授業。諫山小学校5年生の総合学習で勾玉づくりを行いました。保護者の皆さんも参加しての2時間でしたが、My勾玉はうまく出来たかな?



10月25日(土)秋の企画展「小笠原文庫展Part 2」の展示品説明会を開催。展示中の絵図・地図を博物館学芸員が解説しました。



11月20日(木)苅田町立苅田小学校の4年生80名が社会科学習のために来館。「昔の道具」をテーマに、道具を実際にさわってみるなどして学習しました。



《古文書解読コーナー》

① 龍之

〈ヒント〉あさはか

② 生母

〈ヒント〉生まれながら

③ 納月

〈ヒント〉なるほど

④ 急め聲

〈ヒント〉知っているのに…

⑤ 活板

〈ヒント〉〇〇先に立たず

◎答え

(反対向きに見てください)

- ④ 知短慮
- ③ 母生得
- ② 願心(う)
- ① 後生得

みやこの歴史発見伝 21

日本電気 (NEC) 創業者

岩垂邦彦

岩垂邦彦

日本を代表する電子機器メーカーの一つ、日本電気株式会社 (NEC) を創業した岩垂邦彦 (一八七〇—一九四二) は、現みやこ町豊津の出身です。

彼の父は、喜田村脩蔵とい、小倉小笠原藩の藩校「思永館」の教師や支藩の家老などを歴任した人物でした。脩蔵は、同じ小倉藩士・岩垂家からの養子でしたが、元治元年 (一八六四)、今度は跡取りの無かったその実家に、自らの次男・邦彦を養子に出したのです。

慶応二年 (一八六六) 八月、長州との戦いに敗色をみた小倉藩は、城と城下町に自ら火を放ち、藩の中心機能を田川郡香春に移します (一時添田へ移転)。また、藩校思永館もしばらく閉じざるをえませんでした。香春の光願寺を本館に、領内各所の寺院を支館として、ようやく再開することができました。当時、政事掛奉行職という役職に就いていた喜田村脩蔵は、



▲ 岩垂邦彦

思永館再開直前に学校担当奉行 (思永館頭取御政事掛) を命じられています。藩校の名前は、明治二年 (一八六九) に「育徳館」と改められました。脩蔵はその育徳館の教授を命じられました。育徳館での勉学

垂家がいつ頃豊津台地に移り住んだのか不明ですが、様々な周囲の状況から考えて、おそらく同年末には越して来ていたものと思われれます。藩庁と共に豊津台地に建設された育徳館は、明治三年 (一八七〇) 一月に開校し、邦彦もここで学ぶことになりました。しかし、同年一〇月、仲津郡大橋村 (現行橋市) の旧「御茶屋」 (公営の宿泊施設) に、育徳館の分校として洋学校が開かれると、邦彦は、そこでの「洋学修行」を藩から命じられます。この洋学校は日本人教師ばかりで、訳読中心の授業が行われたようです (第一次大橋洋学校)。また、明治四年 (一八七二) 一〇月一日からはオランダ人教師・フア

ンカステールの洋学校が同じ建物を使って開校しますが (第二次大橋洋学校)、その生徒の中にもやはり邦彦がいました。工部大学校・工部省時代

邦彦が工学寮 (後に工部大学校。現東京大学工学部の附属小学校 (予備教育校) に入るのは明治八年 (一八七五) 一〇月で、翌年四月に工学寮への官費入校が許されました。明治一五年 (一八八二) 五月に電信科を卒業すると、官費学生 (義務奉職) のため工部省に入り、同一九年 (一八八六) 五月までの約四年間、技術系官僚として同省に籍を置いています。ちなみに、邦彦の実兄・喜田村寛治も明治一五年に工部大学校冶金科を卒業しました。寛治は工部省には勤めず、鉱業関係の企業を経て大阪造幣局に勤めましたが、病のため帰郷し、旧制豊津中学校の教諭となりました。

日本電気設立

工部省を退職した邦彦は渡米し、トーマス・エジソンのもとで電気・電信技術を習得。その後、明治二年 (一八八八)、大阪電灯株式会社 (現関西電力) 設立にあたって、技師として招かれ帰国しました。大阪電灯では、交流発電を導入し、またジェネラル・エレクトリック (GE) 社製品の販売権を得るなど、会社経営に貢献しましたが、GE社

との契約をめぐる経営陣との意見の違いから退社しました。その後は大阪で電気機械販売店「岩垂電気商会」を起こし、GE社のほかウエスタン・エレクトリック (WE) 社等の日本代理店を営んでいましたが、WE社が日本における電話事業の将来性を見越し、邦彦との合弁事業を計画。それを受けた邦彦は、明治三二年 (一八九八)、後に世界的な企業となる「日本電気合資会社」 (翌年に株式会社化) を設立したのです。

晩年

昭和四年 (一九二九)、会社経営から引退した岩垂邦彦は、「豊前育英会」への寄附を開始します。豊前育英会は、旧制豊津中学校卒業生をはじめ、豊前六郡出身で、大学等に進学する者に対し奨学金を提供する財団法人でした (昭和三年解散)。岩垂の寄附額は、最終的に五〇万円 (現在の貨幣価値で約四億円) に及びました。また、同じ昭和四年、旧制豊津中学校にプールが完成しますが、この建設費も彼が提供した資金を主財源としたものでした。

技術者として、また企業経営者として名を成した後も、岩垂邦彦が故郷を忘れることはなかったのです。

(川本英紀)